

日時：平成 24 年 12 月 4 日（火）

13:30～16:30

場所：美瑛町「四季の情報館」

## 大雪山国立公園山岳関係者による

### 情報交換会及び屋内講習会

#### 議事録

#### 1、開会（司会：東川 R0）

始めにこの会の議事内容は公開とし、後日環境省 HP や大連協 HP などでも公開させていただく旨の説明。

#### 2、挨拶（上川 R0）

##### ○開催経緯と趣旨について

本日は、年末の大変お忙しい中、本会議に御参集下さりまことにありがとうございます。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。本日、北海道地方環境事務所の廣瀬国立公園・保全整備課長が参加予定でしたが、諸事情により参加が出来なくなりまして、代わりに当方より簡単ですが挨拶をさせていただきます。

環境省では、平成 16 年度に「登山道整備技術指針」、平成 17 年度には「登山道の管理水準」等を作成し、それにより登山道の維持管理を行ってきました。しかし、大雪山国立公園は広大であり、その範囲は 1 市 9 町にも及びそれら関係行政機関に加え、ボランティア、山岳会、登山道整備・維持の関係機関・関係者等その関わりは多岐に及んでいます。課題の解決に向けて、これらの関係者が共通認識のもと協働して課題に取り組むための仕組み作りの検討を行う為に平成 22、23 年度にはワークショップや情報交換会等を開催して参りました。

そして、平成 24 年度も 6 月 1 日、登山道に関する情報交換の場の確保を目的として、美瑛町四季の情報館において、登山道関係者による情報交換会を開催しました。今回の会議では、この 6 月に開催した会議で各参加者から発表された今シーズンの活動計画・予定が実際に行われたかどうかという、結果発表をして頂き、互いに情報共有することが目的の一つとなっています。

さらにその上で、単なる情報交換からもう一步踏み込んで、今後どのようなことをしていけばいわゆる「協働型管理」がもっと進められるか、この点について意見交換や議論をしていくということが本会議の 2 つ目の目的になっています。

本日は、登山道講習会や事前に実施したアンケート調査の結果発表等、多岐に渡るメニューを限られた時間に圧縮して行うことになっており、極めてタイトな時間設定ですが、皆様の御協力をよろしく願いいたします。

出席者自己紹介（所属機関および氏名）

※別添名簿のとおり

出席者 28 団体 合計 47 名（内スタッフ 7 名）

### 3、議題

#### 1) 各団体からの活動報告

当日資料 1 より

各機関より今年度の登山道における整備予定箇所、活動予定箇所等の報告が行われた。(欠席者については司会にて代読)

資料 1 への記載事項に付け加えて説明された件については次のとおり。

美瑛町：白金温泉周辺の自然探勝路などの草刈り作業などを適宜実施した。

大雪と石狩の自然を守る会：大雪山山岳地域並びに山麓地域だけでなく旭川市内及び突硝山においてのセイヨウオオマルハナバチのモニタリングなどを実施した。これに加えて今年度から美瑛町の白金模範牧場周辺及び白金街道などにおいても防除活動を行うと共に、研究者を呼びセイヨウの学習会を 12 月 1 日に実施した。大雪山においてはまだまだ情報が少ないので、何らかの標識を作って登山者からも情報を得ることが大事ではないかと思う。

#### □意見交換

意見交換の場で出た質疑などは次のとおり

山岳ガイド：旭岳裾合平方面の木道が腐っていたり、傾いていたりとかなりひどい状態である。これではガイドのお客さんに「木道の上を歩いてください」とは言えないような状態である。ここの管理はどこが行っているのか？また、今後対処などはどのように考えているのか？

東川 R0：木道自体の施設としては北海道のものであるが、環境省の補助事業でもある。今年度に関してはパークボランティア活動の中で木道の傾き修正などを行った。今後も適宜管理は行っていくつもりである。

上川総合振興局：こちらの木道は北海道の財産として管理している箇所である。北海道としては優先順位を決めて要望を出しているが、今年度の予算では忠別小屋の修繕しか行えなかった。よってこの部分に関してはまだ予算がついていない状況である。

#### 2) 屋内講習会 講師：北海道山岳整備（岡崎哲三氏）

8 月の旭岳裾合平、10 月のニペソツ山において行った講習会の振り返り並びに作業時の注意点などの説明が行われた。

旭岳裾合平において導流工を作った経緯、その後機能していなかったため手直しを加えた事、愛山溪やトムラウシ山における導流工や水切りの作業事例、その他利尻山において行ったテンサー工の施工事例の紹介などが行われた。

メンテナンスの重要性について（3 つ）

- ①施工物がしっかり機能しているか？
  - ②作ったものが崩れていないか？
  - ③施工物によって新たな浸食が始まっていないか？
- そのあたりを記録していくことが重要であるとの事。

## □意見交換

意見交換の場に出た質疑などは次のとおり

観光団体：今年度エコツアーとして浸食箇所の測量ツアーなどを行った。その際、一般登山者は「登山道の浸食」という事に対してあまり認識がないという事が分かった。周知するために看板などをその場所に設置するようなことはどうか？それにより保全に対する意識が高まるのでは？

山岳ガイド：一般に周知するところに力を入れるのであれば、浸食を止める方に力を入れたほうが良いと思う。看板などの設置にも労力が必要である。

山岳団体：近自然工法がうまく機能するとこれまでどの部分が浸食されていたのかが分からなくなる。そのような点からは「ここを直しました」というようなことを一般登山者に周知するのも良いかと思うが、その場に看板などを設置するまではいらないのではないか？周知するのであれば、ビジターセンターなどで行えばよいのではないか？

自然保護団体：8月に施工した導流工を私もその後見てきた。その時は一応機能していたと思うが、この部分は雪が遅くまで残る場所である。雪解け後の状況を見るのが重要でないか？  
加えて、愛山溪で過去に行った施工箇所は苔が生えて整備したこと自体が分からなくなってきている。ガイドを行っている方はお客さんを連れていくときに、人が作ったものでもこのように景観に馴染ませることが出来るという事を教えてあげるのも良いのではないか？

山岳団体：雪解け後の状況を見るという事はおっしゃる通り。作った直後が完成でなく、周囲の景観が回復して初めて完成といえる。その後の経過を見る事は重要である。

山岳ガイド：ガイドの立場としてインフォメーションをしたいが、どこに行けばどこの工事を誰がやったなどの情報開示を行って欲しい。

東川 R0：正に今回行っている情報交換会がこの情報開示の場だと考える。

山岳ガイド：近自然工法をしっかりと行っているところは工事されたという事が分からないくらい景観に馴染んでいる。普通の人には分からないと思う。

山岳団体：逆に失敗した例は目立つことが多い。先程も言ったとおり、ササ刈り作業等も含めて作業を行った所は、一般登山者に対して情報の集まる所に一元化されたものを置くなどして周知することで一般登山者にも理解されるのではないかと考える。

## 3) 協働型の今後の方針について

### ○登山道協働型維持管理に関するアンケート集計結果について（資料2）

（東川 R0 より報告）

まとめ

回答を見る限りは、皆さんが積極的な関与を意識していただいているのを認識する一方、もう少し手軽に参加出来る部分を大事にすること、また管理水準を意識した上での計画性も欲しいとの印象を受けた。

### ○「簡易な作業報告様式」の提案（上川 R0）

作業報告書のメリットとしては、①リアルタイムな問題点などの情報共有が出来る。②各山岳団体などが登山道維持管理に貢献していることをアピールできる場となる事等の説明を行った。

□意見交換

意見交換の場に出た質疑などは次のとおり

山岳ガイド：FAX 等で送ることは非常に手間がかかる。フェイスブックなどで情報を交換すればそれでよいのではないかと。出来ればFAXはやめてほしい。

東川 R0：現在の所、フェイスブックを活用することは有効な方法ではあると思うが、環境省で運用出来るか分からない。

NPO 団体：提出された情報がどのような形で活用されるのかが若干分かりにくい。そのあたりを教えてください。

東川 R0：私案ではあるが、関係する行政機関や関係する山岳会などに FAX 情報を回報する、その他大連協 HP などで情報を開示するというようなことを考えている。

山岳団体：イメージとしては簡易な補修であれば関係者であれば構わないと認識した。簡単な崩れであれば少しの作業で対処できる。よって、早めの対処が必要だと考える。このように整備の機会が増えるのは良いことであると考えますが、逆に作業がつまみ食い状態となってしまう、中途半端な事になってしまう事も考えられる。計画性の無い整備にならないようにしてほしい。

東川 R0：今回の作業に関しては、国立公園としての管理、土地所有者としての管理など、管理者行為のうち、その一部の手続を必要としない部分を協働関係者の皆さんに担ってもらいたいと考えている。詳細については次回の交換会までに詰めてお知らせしたい。

○「合同保全作業」の提案（上川 R0）

来シーズンにモデル的に美瑛山岳会の路線で合同作業を行う事の提案を行った。

□意見交換

美瑛山岳会：作業的に労力のかかることについては旭川山岳会に限って合同作業を行ってきたが、機械を使うなどの理由によって誰でも作業に携わってもらう事に関しては、怪我をした時のことを考えると難しい。ただ、美瑛富士線に関しては山のトイレを考える会に荷下げ作業等を手伝ってもらった。

人手が多ければ作業がはかどる事も多いと思うが、内部で改めて協議してみたい。

東川 R0：後日、結果について教えていただきたい。

4、その他

・大連協 HP 変更に関する報告（上川 R0）

※資料 3 を用いて説明を行った。

5、閉会